
朝の挨拶

勝瀬うしよ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝の挨拶

【Nコード】

N6076L

【作者名】

勝瀬うしよ

【あらすじ】

朝のなにげない挨拶は一日の始まりを感じさせる。

彼女が俺に挨拶をしたとき、また今日も頑張ろうって思えるんだ。

(前書き)

暇なときに、さっと読める作品です。

俺はあの日、店で彼女と出会った。

彼女はあの日、店で俺を見つけた。

彼女は俺に一目惚れだった。

俺は特に彼女を気にしなかった。

だが、俺に対する彼女の気持ちは段々と形になっていった。

いつのことだっただろうか、俺と彼女は一緒になった。

それ以来、俺たちはずっと一緒だった。

学校に行くにも一緒だったし

部活も一緒だった。

帰りも一緒だった。

雨の日に相合傘にならないことは無かった。

俺たちは一緒に暮らしている。

寄り添って寝るのはいつものことだった。

俺は、彼女が好きなんだと思う。

彼女も俺を愛してくれている。

だが、俺たちが結ばれることはない。

——決して。

それを運命と言うには簡単すぎた。

でも仕方なかった。

もしかしたら彼女はそう思っていないのかもしれない。

ずっと一緒にいられると思っているのかもしれない。

いや、そうじゃない。

ずっと一緒にいることはできる。

彼女が俺を忘れなければ。

俺が彼女のそばにいる価値があるのならば。

これはとても歪な関係だと思う。

でも俺はそれでいいと思っている。

なぜかって？

やっぱり俺は彼女が好きなんだ。

だから、

今日もいつものように彼女の声を聞く。

いつものように彼女のそばにいる。

「ううん……」

ほら、彼女が起きた。

そしていつもの朝の挨拶。

彼女は目を覚ます時、毎回俺にこう言うのだ。

「おはよう、ギー太」

（後書き）

前作をかいたあと、短編が無性にかきたくなりました。

二作目です。

前作同様、こうしたほうがいいんじゃない？ というのがありましたら教えてください。

あと、ジャンルって「詩」でいいんですかね？

ちなみに、ギターのイメージは、花咲けのユージンです。
なのでもちろん、小野Dの声を想像しながら書きました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6076l/>

朝の挨拶

2010年10月8日11時33分発行